

魚の血合いがコロナ弱毒化か

米国で論文

セレンに 可能性 十分な検証に期待

米国臨床栄養学会誌に4月28日に掲載された論文によると、マグロやブリの血や内臓に多く含まれるセレンという成分には、新型コロナウイルスの病原性を弱らせる可能性がある。論文では、用意できたデータの不足などにより「ウイルス感染者と症状とセレン摂取の」関連付けは十分に頑強ではない」と注釈をつけつつ、今後、関連データが集まるにつれ、セレンの効果を検証できると結んでいる。

論文は、中国の非政府サイトのデータを基にしたもの。同国の地域ごとで人の頭髮に含まれるセレンの量（セレン摂取量と関係性が強い）と、新型コロナウイルス患者の治癒率を見比べた。同セレン含有

量が高地域ほど治癒した人の割合も高いという相関性が有意に認められた。

市だけは省内他地域と比べ同セレン含有量が平均の4〜6倍ほどであり、治癒率も2・8倍を誇った。

省外でも同セレン含有量が湖北省（恩施市除く）の半分未満である黒竜江省では、患者の死亡率が2・4％に達した。

ただし、論文著者は、大広告の恐れがあると注意喚起をしている。

実度などのデータがそろっていないこと、今回の分析に使ったデータの一部古いものが含まれることなどを指摘。研究の解釈には不確実な部分が多いため、今後も新型コロナウイルスの重症度とセレンの関係を研究していく必要があると論じた。

セレンはマグロやブリなどの血や血合い肉、内臓に豊富な成分。既に2型糖尿病やがん発症のリスクを下げるなど機能性が指摘されている。ただし消費者庁は3月10日時点で、新型コロナウイルスの特性が明らかでない段階からセレンの予防効果をうたう健康食品について、誇大広告の恐れがあると注意喚起をしている。

